

平成30年度山形大学農学部 農学紹介講座

農学の夕べ

平成30年
10月25日(木)～12月6日(木)

時間：18:00～19:30(全7回)

場所：山形大学農学部3号館1階102講義室
(山形県鶴岡市若葉町1-23)

受講料：無料(事前申込み不要)

現代の農学の対象は食育、有機農業、バイオテクノロジー、環境問題など非常に幅広くなっています。

そんな農学を広くみなさんに知っていただきと考へ、企画しました。

事前申込は不要です。興味のあるテーマがありましたらぜひお気軽にお越しください。

「お問い合わせ先」

山形大学農学部企画広報室 TEL 0235-28-2911

◆第1回 10月25日(木)

「農業を考える2つのポイント-農産物に対する農業者と消費者の価値観、農業者の過不足」

教授 小沢 互(農業経済学)

◆第2回 11月1日(木)

「イチゴ～ちょっとイチゴ通になれる20の小ネタ～」

教授 西澤 隆(園芸学)

◆第3回 11月8日(木)

「市民協働による森づくり・環境保全の現状と課題」

准教授 菊池 俊一(流域保全・再生学)

◆第4回 11月15日(木)

「『アニマルウェルフェア』ご存知ですか？」

教授 堀口 健一(畜産学)

◆第5回 11月22日(木)

「第2回ブロッケン現象について」

客員教授 前田 直己

◆第6回 11月29日(木)

「生物のゲノム編集技術が私たちにもたらすもの」

教授 木村 直子(生殖生物学・生理工学)

◆第7回 12月6日(木)

「農学部が向かう地域貢献」

教授 林田 光祐(学部長)

「注意事項」

当講座の様子については、写真撮影の上、各種広報誌やWeb上等に掲載することがありますので予めご了承願います。顔写真の撮影等につき特段のご要望がある場合は、担当職員にお申し出ください。

| 開講日 | 講義テーマと概要  | 担当教員 |
|---|--|--------------------------------------|
| <p><第1回> 10月25日(木) 102講義室</p> | <p>「農業を考える2つのポイントー農産物に対する農業者と消費者の価値観、農業者の過不足」 農産物の多くは食料となることから、生産する農業者と消費する消費者の価値観を知ることが現在の農業の状況を考える上で重要です。そして、生産の担い手の農業者が今どれくらいいるのかは食料の将来を考えるために必要不可欠です。この2つについて考えてみたいと思います。</p> | <p>教授 小沢 瓦 (農業経済学)</p> |
| <p><第2回> 11月1日(木) 102講義室</p> | <p>「イチゴ ～ちよつとイチゴ通になれる20の小ネタ～」 魅惑的な赤い色と甘く適度な酸味のあるイチゴは、最も人気のある果物の一つです。でも、現在私達が食べているイチゴがいつどこで最初に作られたのか知っている人は余り多くありません。また、現在イチゴは寒冷地から熱帯地域に至るまで世界中で栽培されていますが、どの国が最も多くイチゴを栽培しているのでしょうか？さらに、日本におけるイチゴの栽培技術は世界でもトップクラスと言われますが、日本のイチゴの生産性も世界でトップクラスなのでしょうか？こうした点についてデータを基に考えて行くと、意外な一面が見えてきます。本講義ではイチゴの栽培を通して世界と日本の園芸生産について考えて行こうと思います。</p> | <p>教授 西澤 隆 (園芸学)</p> |
| <p><第3回> 11月8日(木) 102講義室</p> | <p>「市民協働による森づくり・環境保全の現状と課題」 自然環境の劣化を背景に、各地では多様な主体の協働による森づくりや自然環境の保全活動が進められています。それらの事例を紹介しつつ、市民活動の成果、活動の抱える課題、主体の役割分担、活動の先にみえること等をご紹介します。</p> | <p>准教授 菊池 俊一 (流域保全・再生学)</p> |
| <p><第4回> 11月15日(木) 102講義室</p> | <p>「『アニマルウェルフェア』 ご存じですか？」 ウシ、ブタ、ニワトリなどの家畜の生産現場において、アニマルウェルフェアの考え方はとても大切です。私たちは畜産物によりバラエティに富んだ食生活を楽しんでいます。家畜が畜産物を生産しているのですから、家畜に優しい飼育環境への配慮が必要です。本講義を通じて、アニマルウェルフェアについて、皆さんに知ってもらい、皆さんと一緒に考えたいと思います。</p> | <p>教授 堀口 健一 (畜産学)</p> |
| <p><第5回> 11月22日(木) 102講義室</p> | <p>「第2回ブロッケン現象について」 世界で最初にブロッケン現象に名前をつけたのは、出羽三山の修験者だった？！俳人・松尾芭蕉が奥の細道で出羽三山に修行に入った際の門人、曾良の随行日記に着目し、山岳信仰と歴史について昨年度に引き続き読み解いていきます。 ※ブロッケン現象：高山に登った際、登山者自身の影が太陽を光源にして霧や雲に映る現象。飛行機の影が雲に映ることや、影の周囲に虹のような光の輪が現れることがある。</p> | <p>客員教授 前田 直己</p> |
| <p><第6回> 11月29日(木) 102講義室</p> | <p>「生物のゲノム編集技術が私たちにもたらすもの」 近年、ゲノム編集技術（CRISPR/Cas9など）の革新的進歩により、生物のゲノム情報は自在に書き換え可能となり、医療・医薬品の開発、農水産物の効率的生産や付加価値、感染症対策など、様々な産業分野に応用されようとしています。今回、私たちの暮らしの中で、特に食生活におけるこれらの技術利用の在り方について考えてみませんか？</p> | <p>教授 木村 直子 (生殖生物学・生植工学)</p> |
| <p><第7回> 12月6日(木) 102講義室</p> | <p>「農学部が向かう地域貢献」 山形大学農学部は、昨年創立70周年を迎え、豊かな自然と文化に恵まれた庄内地域の特性を最大限に活かした教育・研究を進めてきました。現在学部をあげて取り組んでいる教育改革やプロジェクト事業を中心に、山大農学部がこの地域でどのような役割を担っていくかを紹介し、皆さんと意見交換をしたいと考えています。</p> | <p>教授 林田 光祐 (学部長)</p> |